



## 大学のインターフェース

京都大学技術士会

元副会長

京都大学理事・副学長

北野正雄



京都大学の理事・副学長（教育・情報・評価担当）に着任して、1年半になります。京都大学技術士会創設当時、工学研究科長を務めていた関係で副会長を務めさせていただきました。技術士会の会合に出席するたびに、メンバーの皆様の工学や技術に対する熱意や博識、行動力に圧倒されております。今後も学生や卒業生に、技術士の取得を目指すよう積極的に働きかけてゆきたいと思っています。

京都大学の最近の教育の取り組み、特に教育システムとしての大学のインターフェースの改善についてご紹介します。大学の入力側インターフェースは入学者の選抜です。近年、大学受験を過度に重視する傾向が高じて、合格自体が目的になってしまい、入学後に目標を見失う学生が増えてています。本人の志や希望を差し置いて、偏差値や受験産業の判断に基づいて進路を選択することが当然のこととなっています。京都大学では平成28年度から「高大接続型特色入試」という新たな制度を導入しました。学部・学科別に、AO入試、推薦入試、後期日程など異なる方法で、高校での教科以外の活動成果、

入学後の学びの意欲、適性などを多面的に評価するものです。現時点での定員は全体の3%程度に過ぎませんが、各学部・学科への進学にしっかりととした目的と意欲を持った志願者を集めることができます。

出力側インターフェースの大きい問題は博士後期課程への進学率の低迷です。授業料等の経済的負担もさることながら、修士の場合に比べて、就職の自由度が下がるという思い込みが主な原因です。一方、企業には、「博士=研究者」という先入観のために、博士を敬遠する傾向が見られます。博士人材がより広く社会で活躍できる状況を実現する方策の一つとして、中長期インターンシップ事業を展開しています。大学院生を2ヶ月程度、企業の研究現場で受け入れてもらい、自分の研究室以外での活動を通して経験の幅を広げようというものです。就職や産学共同研究のためではなく、産業界にも博士人材の育成に協力してもらうことを目的として、複数の大学と複数の企業の共同事業（産学協働イノベーション人材育成協議会）として実施しています。

一般に、システムのインターフェースは、境界の規約をはっきりと定め、その両側に位置するシステムがお互いの中身を知らずに設計・運用がされることが望ましいわけです。従来大学も入学試験と就職試験という、はっきりとした境界に頼って運用されてきました。昨今の改革はシステム設計の常識に反する形で行われていることになります。



## 国際化時代における 技術者資格の重要性

京都大学技術士会

副代表幹事

京都大学大学院

工学研究科副研究科長

大津宏康



京都大学技術士会では、平成26年から京都大学大学院工学研究科と連携して、在学生を対象とした「技術士を目指そう」説明会を、毎年4月に京都大学桂キャンパスにおいて開催してきました。本年も4月15日を開催を予定しています。

毎回、説明会の冒頭で、学生に技術士資格を得ることの重要性を説明していますが、自身の経験を踏まえて、いつも以下の点を強調しています。

- ・日本社会では、技術者の信用は所属する組織の看板に依存することが一般的ですが、一度海外に出ると、信用は、組織の看板ではなく、その技術者自身の能力によることが大半
- ・その技術者自身の能力を客観的にはかるために整備されたものが「技術者資格」で、その代表的な資格が国際的にはPE(Professional Engineers)で、「技術士」はその日本版資格に相当

昨今、国際化の重要性・必要性が多方面で唱えられています。このような状況下で、技術者が国内だけでなく海外でも活躍することが不可欠です。そのためには、学生時代から将来的なビジョンを形成する上で、「技術士」を知り、「技術士」を目指すよう指導するのも大学に籍を置くもののミッションの一つと捉えています。

これまでに開催してきた説明会の実績として、分野ごとの「技術士」資格保有数の分布と同様に、

建設部門に相当する専門分野の学生の参加が大半で、その他の分野の学生の参加は必ずしも十分と言えません。

京都大学技術士会では、京都大学大学院工学研究科の協力を得てこのような取組みを継続することで、多くの分野の学生に「国際化時代における技術者資格の重要性」についての認知度を高めていきたいと思います。



## 技術士法に欠けるもの

国土技術研究センター  
(JICE)

国土政策研究所長

大石 久和



わが国ではすべての法律が全体として一つの体系の構成しており、相互に矛盾が一切ない建前になっている。資格法にも技術士法をはじめ医師法、弁護士法などの法律が数多くあり、これらの法律は当該の資格者に求める資質を資格ごとに必要に応じて規定している。

ということは、ある資格法が、それが規定する資格者にある資質を求め、他の資格法ではその資質を求めていない場合には、法律群としては、求められていない資格者にはその資質は不要だと判断していることになる。

具体に資格法を見ると、弁護士には「使命感、深い教養、高い品性」を求め、公認会計士にも「使命感、品位」を要求し、税理士にも「使命感」が必要だと規定している。

しかし、医師法は医師に「使命感も教養も品性も」求めていないから、法律は患者と人間関係を構築し信頼を得て治療行為にあたるべき医師に対し、「人命救済への使命感」も「良好な信頼関係を築くための品性や教養」も求めていないのである。

それは技術士についても同様で、法律は何の人間的資質も要求していないから、技術士には使命感すら不要なのだ。このような差異を設けることは法律による資格差別・人間差別というべきものだ。技術士は医師とともに「われわれの仕事には使命感も教養も品性も必要なのだ」との運動を展開しなければならないのである。

## 技術者資格の国際動向（その1）

(有) SYSBRAINS

代表取締役

橋本 義平



国際化という言葉は 1980 年代後半、とくに 90 年代における国境を越えた経済活動の拡大に伴い、各国間における技術者の移動が活発化するにしたがって、移動国間において技術者資格と技術者教育認定制度の質保証を行なうための相互認証枠組みが求められるようになった。

この動きには WTO の設立が大きく関与している。WTO の設立に同意するマラケッシュ協定の一部として成立した GATS (General Agreement on Trade in Service)の条文にある「モノとサービスの貿易の自由化」に沿って、従来の弁護士や公認会計士、税理士等の業務以外に GATS 第 6 条で規定される「特定の業務」の対象に技術士、建築士及び弁理士などのサービス、ならびにエンジニアリング、研究開発および教育等の専門的サービスも含まれるようになり、それに伴い、技術者資格の認証の相互承認や地域共通資格制度の創設を推進する動きが高まってきた。これに対応して、各国が国際基準に準拠した技術者資格あるいは技術者教育認定制度の相互承認の仕組みを整備するようになり、わが国では 2000 年の技術士法改正および 1999 年の JABEE<sup>①</sup>の設立となった。

技術者教育認定制度と技術者資格は密接に関連しており、技術者教育においては教育の成果(what is learned)を重視し、なかでも「Engineering Ethics」と「Ability to design a system, component, or process to meet desired needs within realistic constraints such as economic, environmental, social, political, ethical, health and safety, manufacturability, and sustainability」の能力を



強調している。

こうした教育をベースに実務経験を重ねた技術者の国際的移動を促すために、技術者資格の相互承認制度が出来てきた。いくつかの制度が存在するが日本との関連でいえば、APEC エンジニア制度と IPEA 国際エンジニア制度<sup>②</sup>がある。両者は枠組み創設時における構成メンバーの違いに由来し、現在では IEA<sup>③</sup>機構の中に並存しており、いずれは統合されると思われる。

こうした制度で注目すべきは、日本では技術に関わる者を一括りに技術者と表現しがちだが、ここでは Engineer, Technologist, Technician の三つのプロフェッショナル・トラックを定義し、三者はいずれもプロフェッショナルとして位置づけられ、その教育制度には技術者団体が多くの国で関わっていることを知らされた。またプロフェッショナル意識は、日頃、社畜とも蔑称されたりする日本の技術者に新しい視点を与え、さらに新しい高等工学教育を受けた技術者にとって Engineering Ethics (技術者倫理) とは法や規格・基準を守ることだけではないという認識を育むことになった。

(注)

- ① JABEE~ Accreditation Board for Engineering Education
- ② APEC エンジニア、IPEA 国際エンジニア~公益社団法人日本技術士会 HP 参照
- ③ IEA~ International Engineering Alliance

## 2015年下半期活動を振り返って

京都大学技術士会

副会長

兼 代表幹事

武藤 光



2015年度は設立3年目ですが、会員数は約550名と日々増加を続けています。当会の活動を支える幹事は総勢40名の規模になりました。当会最大の

行事は、毎年1回開催する大会・特別講演会です。2015年度は11月7日(土)に、京都大学百周年時計台記念館の国際交流ホールで開催し、会員を中心に多くの技術者が参加しました。このほか下半期には、当会の新たな取り組みとして、東北大学と大阪大学の技術士会と連携した三大学講演会を実現することができ、好評を得ました。一方、懸案になっていた専用ホームページですが、いよいよ2015年度末に開設する運びとなりました。2016年度からは新たな情報発信の場として、また会員の交流の場としてご利用いただけます。今後とも、皆様の力強い一層のご支援をお願いいたします。

## 第5回「技術士を目指そう」説明会

「技術士を目指そう」説明会は2015年11月7日(土)10:00~12:00の間で、京都大学時計台2階 会議室Ⅲで開催されました。参加者は大学院生、学部生9名と大学教官1名の合計10名でした。

京都大学技術士会副会長兼副代表幹事 綾木技術士(森林・総合技術監理部門)の挨拶で開始し、幹事の田岡技術士(機械・総合技術監理部門)から以下の内容の説明がありました。



写真1 第5回「技術士を目指そう」説明会

- I. 国家資格「技術士」について
- ・「技術士」資格とは何か

- ・資格の効用と活用
- ・技術士試験制度の紹介
- ・「技術士」になるまでのプロセス
- ・「技術士」になるため修得すべき事やキャリア
- ・新試験制度の紹介

続いて、技術士の体験談を山崎技術士（機械部門）と上田技術士（環境・総合技術監理部門）からお話をされました。技術士取得で得られるメリットや活躍できる分野について説明がありました。



写真2 第5回「技術士を目指そう」説明会

その後、全体の質疑応答を経て、部門別の個別説明会を会議室III、会議室IVで開催しました。

参加者は希望する部門の技術士に熱心に質問を行っておられました。

説明会後のアンケート結果でも技術士試験受験希望の回答があり、説明会の効果はあったといえます。ただ、参加者数が少なかったため、事前のPR周知等に課題が残りました。（上田：企画幹事（関西））

## 第6回「技術士を目指そう」説明会

「技術士を目指そう」第6回説明会が、平成28年2月27日に関東地区（日本技術士会会議室）において開催されました。関東地区に在住する卒業生を中心に21名の参加がありました。

新原雄二幹事の司会進行のもと、第1部では技術士制度の説明に続き、各分野で技術士として活躍する、大坪幹事（工学研究科・1978年修了・経営工

学部門）、龍原幹事（工学研究科・1991年修了・建設部門）、田中和明会員（工学研究科・1982年修了・金属部門）の3名により、それぞれの体験を交えた技術士資格取得のメリットに関する講演がありました。その後、試験制度の説明と京都大学技術士会の設立趣旨・活動状況説明がありました。

写真3 第6回「技術士を目指そう」説明会



休憩を挟んで、第2部では参加者が取得希望部門別のテーブルに分かれての部門別相談会が実施されました。各テーブルでは活発な質疑応答が行われ、個別のケースに合わせたより詳しい受験相談が実施されました。また、相談会に続いて、受験へ向けた壮行を兼ねた交流会が行われました。（新原：企画幹事（関東））



写真4 第6回「技術士を目指そう」説明会



## 第3回大会・特別講演会・懇親会

ホームカミングデーの11月7日(土)、京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールにおいて、京都大学技術士会第3回大会・特別講演会が開催されました。

京都大学技術士会は、技術士法に規定された技術士資格をもつ本学卒業(修了)生および教職員で構成され、会員数は大会時点で534名です。

大会は毎年1回、京都と東京で交互に行われ、今回は47名が参加しました。

講演に先立ち、大西有三 会長の挨拶に続き、武藤光 副会長兼代表幹事から、京都大学技術士会の2014年度の事業報告・決算報告と2015年度の事業計画・予算計画などの説明がありました。

第3回大会の特別講演として、タカラバイオ株式会社代表取締役社長中尾功一様(農学部・1985年卒)から「日本の再生医療等製品関連産業の現状」と題して、体外遺伝子治療や細胞医療の現状や今後の展望についてご講演いただきました。



写真5 大西会長挨拶



写真6 中尾氏特別講演

また、タカラバイオ(株)が2014年に滋賀県草津市に設立した「遺伝子・細胞プロセッシングセンター」と「バイオメディカルセンター」の建設にまつわる苦労話や、今後の再生医療等製品開発の展望についてお話をいただきました。参加者47名、大いに満足できる講演内容でした。



写真7 総会・特別講演会会場風景

大会・特別講演会後、同じ国際交流センター内の会場に席を移し、懇親会が催されました。懇親会は上田幹事とマンドリンオーケストラの素晴らしいウェルカムミュージック演奏で始まり、30~80歳台という幅広い年齢層の理科系各学部にまたがる多分野の専門技術者の集まりという他の同窓会にない長所を生かし、有意義な意見交換の場となりました。最後に、京都大学の発展と会員のますますの健勝を祈念して、盛況のうちに閉会しました。(綾木:副会長兼副代表幹事(関西))



写真8 懇親会ウェルカムミュージック  
マンドリン演奏



写真9 参加者集合写真

## 大学技術士会連絡協議会

創刊号で各出身大学別技術士会の状況が紹介されましたが、各校間の情報共有を図るための有志連盟である「大学技術士会連絡協議会」（通称；大技連）という組織があり、当会も設立時から参加しています。大技連は2006年に3校（武工大・日大・早大）によって設立され、その後年を追うごとに参加校を増やし、現在は25校が参加しています。総会を年1回開催しており、第8回が先日2015年11月9日に日本技術士会会議室で開催されました。京大は第6回総会から参加の後発組と言えますが、当会の設立大会の際には多くの参加校から心温まる祝電を頂戴しました。



写真10 大学技術士会連絡協議会 第8回総会

一方、京都大学技術士会は公益社団法人日本技術士会と「広報に関する相互協力協定」を個別に締結しております（記念すべき締結校第1号）。これは広報行事の際の相互の人材派遣や旅費負担の協力を目的としたもので、締結校は現在4校（東京都市大・千葉工大・近大・京大）のみです。大学本体と活動連携をしているか、すなわちより多くの卒業生の方に技術士になっていただける活動をしているかが締結の主要な要件となっております。

今後、先日開催の「三大学技術士会合同講演会」などのような、大技連参加校や諸団体との連携も推進していきたいと考えております。

（佐竹：副代表幹事・広報総括（関東））

表 『大学技術士会連絡協議会』参加技術士会  
(2015.11.9 現在)

	大学名／技術士会名	
1	東京工業大学	蔵前技術士会
2	日本大学	桜門技術士会
3	早稲田大学	技術士稻門会
4	東京都市大学	柏門技術士会
5	東京理科大学	理窓技術士会
6	中央大学	中大技術士会
7	千葉工業大学	同技術士会
8	工学院大学	同技術士会
9	東北大学	技術士青葉会
10	大阪工業大学	同学園技術士会
11	摂南大学	同技術士会
12	名城大学	同技術士会
13	芝浦工業大学	芝浦技術士会
14	慶應義塾大学	慶應技術士会
15	室蘭工業大学	水元技術士会
16	九州工業大学	同技術士会
17	名古屋工業大学	ごきそ技術士会
18	大阪大学	大阪銀杏技術士会
19	京都大学	京都大学技術士会
20	東京電機大学	同技術士会
21	電気通信大学	同技術士会
22	東北工業大学	工大土木技術士会
23	大阪産業大学	同技術士会
24	近畿大学	同技術士会
25	中部大学	同技術士会

## 第1回 3大学合同講演会

大阪大学技術士会（大阪銀杏技術士会）、東北大學技術士会（技術士青葉会）および京都大学技術士会の合同企画として初めての講演会を開催しました。この行事は、大学技術士会間の交流と各会員の継続研鑽を目的として企画されたもので、三大学の技術士会員を中心に44名の参加がありました。

京都大学技術士会の中谷武彦 幹事（工学研究科・1993年修了）が司会進行し、冒頭には大阪銀杏技術士会の藤田会長が開会の挨拶を述べられました。その後2名の講演者が、それぞれ下記の内容について2時間の講演を行いました。

### 【講演1】

- ・演題：個別化予防・医療を目指した「遺伝子解析技術の開発」と「ビッグデータの社会実装」への展望



写真11：布施教授の講演風景

- ・講師：布施昇男 教授
- ・所属：東北大学 東北メディカル・メガバンク機構／地域支援仙台センター長
- ・概要：「ゲノム解析の入門」的なご説明から始まり、東日本大震災からの復興の核（エンジン）とすべく立ち上げられた東北メディカル・メガバンクでの取組みが紹介された。その目指すところは、①被災地住民の長期健康支援、②医療情報のIT化、③次世代型地域医療体制の確立、④医療関係を目指

す若手を惹きつける魅力あるプロジェクト作り、などである。

### 【講演2】

- ・演題：インダストリー4.0の中核をなす3Dプリンターの最前線



写真12：山口代表の講演風景

- ・講師：山口修一 代表取締役、工学博士
- ・所属：株式会社マイクロジェット／株式会社3Dプリンター総研
- ・概要：3Dプリンター（以下3DP）などによるものづくり改革の流れの向かうゴールはデジタルファブリケーションである。その中核をなす3DPでは既に世代交代時期が始まっており、近年一般消費者に広がった低価格機種から、より実用的な機種（およびメーカー）へと発展しつつある。この新しい流れにより「複雑形状の商品製作は高い」といった従来常識は覆り、複雑さが故に商品化を諦めていたものにチャンスが到来する。また『効率化のための規格化・標準化』の考え方から、『多品種少量生産』や『個別大量生産』への転換が生じる。

講演会は盛会のうちに終了し、引き続いて懇親会が行われました。技術士青葉会の沖津幹事の司会進行のもと、京大技術士会の武藤代表幹事の乾杯挨拶で開会し、2名の講演者と34名の参加者が歓談・交流を楽しみました。（中谷：企画幹事（関東））



## 第4回役員総会

第4回役員総会は、第3回大会に合わせて11月7日に開催しました。議長である大西会長が役員・幹事全員を招集して開催することになっていますが、総数38名の内、議長委任を含めて35名が集まりました。役員・幹事の過半数以上出席が必要という本会会則に従い、議事開催の可否を確認しました。

役員総会では、本会の運営及び事業の実施に係る重要な事項を審議します。今回は次の5項目について審議を行いました。

- ①2014年度活動報告および2015年度活動計画
- ②2014年度収支報告および2015年度予算計画
- ③会員登録状況の確認
- ④役員幹事体制の確認
- ⑤その他

審議事項の具体的な内容は、技術士資格の取得支援活動と継続研鑽のための講演会の運営等が中心議題ですが、このほか広報活動や会員・幹事の増強活動、さらには他の技術士会との連携やホームページ開設に関しても活発な意見交換が行われました。審議が必要な事項については、それぞれの担当幹事が内容説明し、質疑・意見および応答を経た後に出席者の承認を得る、という手順で進めました。本会は、「会員および京都大学と在学生の役に立つ技術士会」をコンセプトの一つに掲げています。このような目線で会則の見直し・充実を図るなど、本会の運営および事業を実施する上で、役員総会は重要な位置付けてとなっています。(武藤：副会長兼代表幹事)



写真13：第4回役員総会

## 第1回企画幹事会/第15～16回幹事会

講演会、大会、他団体との共催イベント、「技術士を目指そう」講習会、会員の入会、広報、ホームページの設置等を議論・決定するために、下記の会議を実施しました。

第1回企画幹事会（2015年10月17日）

第15回幹事会（2015年12月2日）

第16回幹事会（2016年2月9日）

第1回HP検討委員会（2016年2月27日）

第15回幹事会の終了後には、忘年会を開催し、技術士会の今後について熱い議論を交わしました。

(辻井：総務幹事（関東）)



写真14：関東幹事メンバー

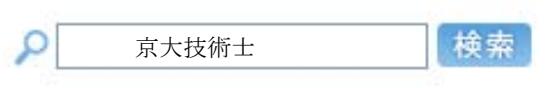
## 広報活動

当会の広報活動に資するため、このたび京都大学技術士会の公式ホームページおよびFacebookを開設しました。URLは下記のとおりです。

ホームページ <http://ku-pe.net/>

facebook

<https://www.facebook.com/Kyoda-iPE/>



公式ホームページ開設に併せて、マーリングリストや受付フォームなどの情報システムも新たに整備しました。今後、より活発な情報発信、行事運営の効率化などを目指していきたいと思います。なお、京大同窓会サイトにもこれまでどおり掲載をお願いし、情報発信の面でも当会と大学のコラボレーションを図っていく予定です。どうぞよろしくお願いします。(佐竹：副代表幹事・広報総括（関東）)

## 会員状況

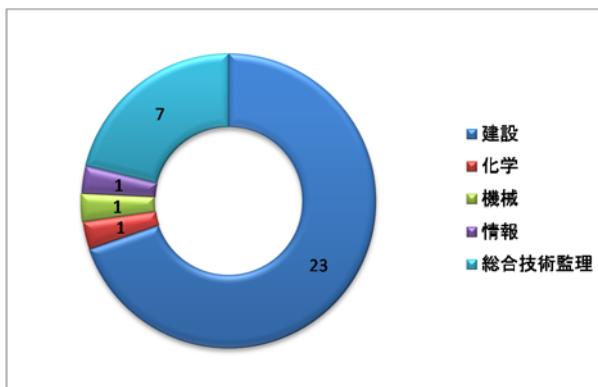
### 1. 会員数

2016年3月時点での会員数は559名です。

創刊号発行時(半年前)より25名増加しました。

増加した25名の技術部門内訳は下記のとおりです。

(一人で複数部門に登録されている方がおられるため、のべ人数で記載しています)

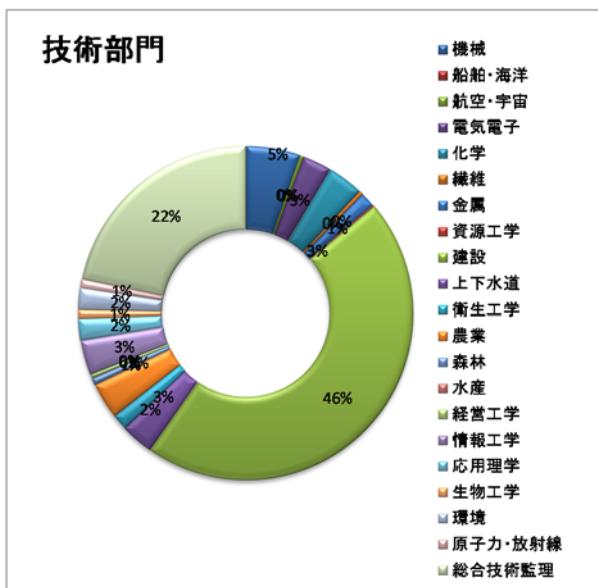


### 2. 会員の地域分布

関東が50%、近畿が32%となっています。

### 3. 登録技術部門の割合

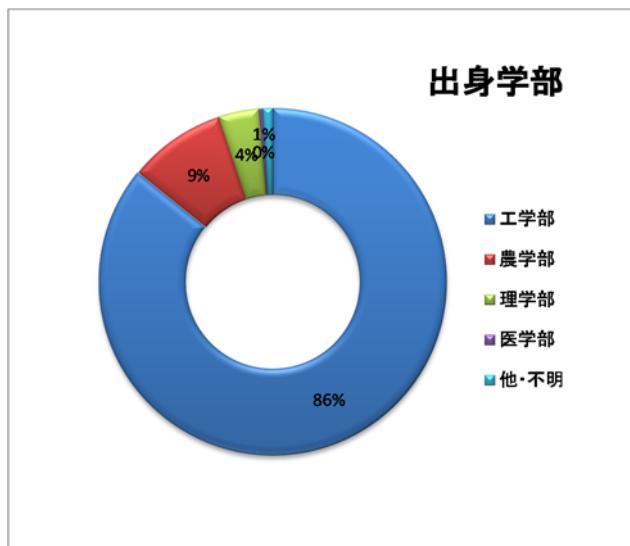
建設が46%、機械が5%です。他の20部門に加えて取得される総合技術監理は22%です。



### 4. 卒業学部・学科の割合

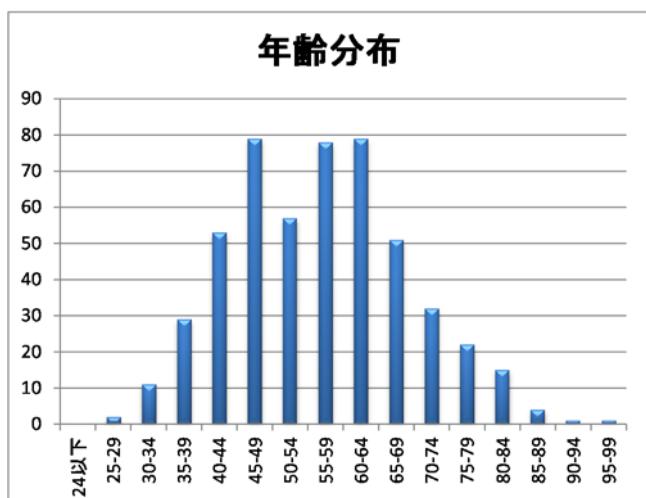
工学部が86%、農学部が9%、理学部が4%です。

なお、工学部内では土木系が半分を占めています。



### 5. 年齢分布

会員データの大学卒業年から類推した年齢分布を示します。45~64歳の会員が多数を占めています。



(白川：総務幹事（会員担当）)



## 運営体制の紹介

「役員総会・幹事会の開催」の項にありますように、京都大学技術士会の運営体制は下図のようになっています。

表1と表2は2015～2016年度の役員と幹事メンバーです。大学は●、関西は●で示します。その他は関東です

2016年3月までの2年間、工学研究科長の伊藤紳三郎先生が副会長を引き受けさせていただき、大変お世話になりました。2016年4月からは、新工学研究科長の北村隆行先生が副会長を引継いでくださいます。どうぞよろしくお願ひいたします。

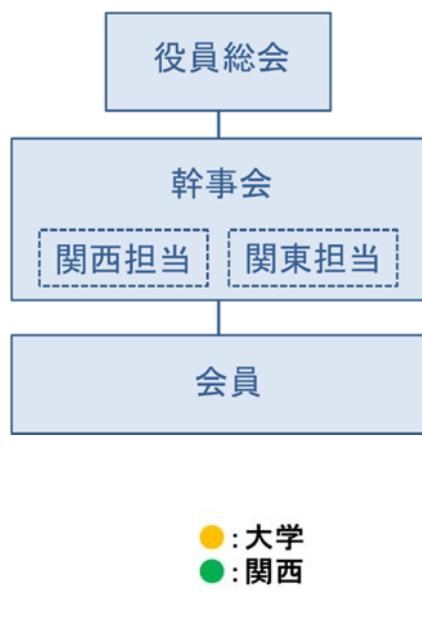


表1 2015～2016年度役員

会長	大西 有三● (元副学長)	会務総理
副会長	北村 隆行● (工学研究科長)	大学総括
副会長	武藤 光	会務執行総括
副会長	綾木 光弘●	関西総括
参与	高宮 倭武	
参与	林 克己	
監事	武山 正人●	

表2 2015～2016年度幹事

代表幹事	会務執行総括	武藤 光	
副代表幹事	大学総括	大津 宏康●	
		(副工学研究科長)	
副代表幹事	関西総括	綾木 光弘●	
副代表幹事	関東総括	佐竹 孝	
幹事	山崎 洋右●	幹事	下村 泰造
幹事	田岡 直規●	幹事	狩野 陽●
幹事	小畠 亨司	幹事	有野 剛史●
幹事	嶋田 弘僧	幹事	仲矢 順子●
幹事	安藤 秀樹	幹事	福本 育央●
幹事	白川 正広	幹事	岡田 浩樹●
幹事	乾 貴誌	幹事	横尾 敦
幹事	大坪 利行	幹事	新原 雄二
幹事	徳川 和彦	幹事	栗本 卓
幹事	上田 泰史●	幹事	中山 かおり
幹事	千田 琢●	幹事	神田 佑亮●
幹事	久保田 正博●	幹事	龍原 毅
幹事	辻井 修	幹事	松井 理恵
幹事	以後 有希夫	幹事	湯浅 岳史
幹事	中谷 武彦		



## 幹事の紹介



### 自己紹介



中山 かおり

大学では土木工学科を専攻し、平成6年にゼネコンに入社しました。入社後は現場での施工管理を4年、技術部でコンクリート構造物の維持管理業務を11年、現在は土木営業部で7年経過しました。元々女性が少ない業界ですが、数年前から女性土木技術者の採用も継続して行われており、後輩達がやりがいを持って働き続けて貰えるように、陰ながらサポートしている日々です。

H27年度より幹事を仰せつかり、建設部門の方は勿論ですが、他部門の方々との交流や、他分野の最新情報に触れる機会が増え、世界が広がったことを嬉しく感じています。

プライベートでは娘が中2、息子が小6になり、オフは子供たちと楽しく過ごしています。

(平6工、建設部門、清水建設㈱)



### 1から出直し中です



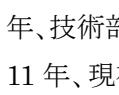
白川 正広

本会では、会員名簿を担当しております。発足当時の幹事30名からスタートし、現在、550名にまでなったことを喜ばしく感じております。

専門は放射線管理学で入社後も「もんじゅ」や

核燃料施設の遮蔽・臨界安全設計業務に従事し、1998年、東海発電所の停止に合わせて、廃止措置の制度設計や廃棄物管理、特に、解体時に大量に派生する「放射性でない廃棄物」やクリアランスの制度化に関わってきました。この分野で技術士の資格を取得しましたが、東日本大震災後に、社会インフラ関連の業務に移り、現在は、太陽光や風力発電の系統連系、蓄電制御、電力自由化への対応など、技術士の専門分野から離れ、1から出直しの状況です。

(昭55理、昭57農修、原子力・放射線部門、富士電機(株))



### 自己紹介



下村 泰造

関東で幹事を務めております下村泰造です。京都大学技術士会は幅広い技術士部門に渡る圧倒的な会員数を誇ります。普段のビジネスではあまりお知り合いになれない方にもお会いでき、新しい発想や豊富なトピックスに自身も常に刺激を受けております。幹事として参加させていただく中で、改めて京都大学の方々の底力を感じます。

そんなパワーに刺激されてか?私もビジネスだけではなく下手なゴルフにメスを入れるべく新しいクラブを揃えて、日夜イメージトレーニングと練習に励んでおります。個々のパワーが結びつき、数ある他大学の技術士会とは一味違う技術士会となるよう、今後も微力ながらお役にたてればと思います。

(平6工修・平20工博、建設/総合監理部門、大成建設㈱)



## 自己紹介



新原 雄二

建設会社に勤めております。会社に入って22年、その間、研究所に7年半、設計部門に9年、施工部門（現場）に5年半と、技術系の仕事に携わってきました。現場は、台湾の発電所での海上放水口の建設、羽田D滑走路（海上空港）の建設と、作業船を使う“海工事”を経験してきました。現在は、海洋・港湾関連の施設やエネルギー関連施設（電力、ガス、石油など）の設計を担当しております。京都大学技術士会の活動を通して、多くの技術者との交流や自分自身の技術の研鑽ができればよいと思っております。よろしくお願ひいたします。

（平3工、平5土木修了、建設部門、鹿島建設（株））



## 大学と、民間と



神田 佑亮

この3月までは京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻にて、教員として4年間お世話になりました。そして4月からは（株）オリエンタルコンサルタントに復帰？し、再び交通計画、まちづくり等のプロジェクトや事業に、特に自分自身の大命題である「地方創生」に、貢献していきたいと思っております。

京都大学技術士会のありがたいところの1つは、様々な技術部門の方と交流ができるところにあるかと思います。私は技術士を建設コンサルタント在籍時に取得したこともあり、技術士を接点として建設部門以外の方々とお話をすることが今までりませんでした。大学在籍時から異分野の会員・幹事の皆様との交流の機会を得て、非常に大きな刺激を受けております。

大学と民間との接点として、微力ながらお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

（教員（平22～平26）、建設部門、（株）オリエンタルコンサルタント）





## 楽しい技術士活動



久保田 正博

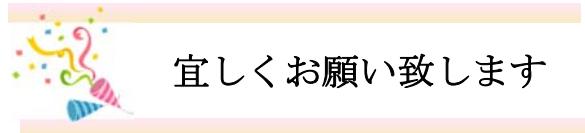
大学・大学院で有機超伝導体の研究をした後、2年間化学会社でポリイミドモノマーの合成法の開発をしていました。その後、電子部品会社に転職して、現在に至るまで電極材料の開発に従事しております。

技術士資格の取得で、自分の実力の証明が容易になるとともに、人脈形成による視野の広がりを感じており、楽しく技術士活動をさせていただいています。

京都大学技術士会での受験説明会などを通じ、自分の感じた資格取得メリットを宣伝していくたい、と思っています。

今後とも、皆様よろしくお願ひします。

(平6 理修、化学/総合技術監理部門、(株)村田製作所)



## 宜しくお願ひ致します



千田 琢

関西地区の幹事を仰せつかっております千田と申します。

修士修了後は鉄道会社に入社し旅客サービス機器、特に券売機や自動改札・ICカードシステム等の出改札設備の保守管理業務に従事しておりました。業務の中でヒューマンエラー対策に携わったことが契機で、5年前からは社内の研究所に移りヒューマンファクターに関わる研究として主に眼気対策等の研究に取り組んでおります。

技術士としての活動では、技術士会の例会担当幹事や、京滋地区や震災復興支援を目的として数年前から東北で開催されている小中学生向けの理科実験教室等に参加しております。

今後も技術士会を通じて活動の幅を広げていきたいと思います。どうぞ宜しくお願ひ致します。

(平12 工修、機械/総合技術監理部門、西日本旅客鉄道(株))





## 会員紹介

### 技術士取得で得られたもの



御崎 哲一

私は1997年工学部資源工学科を卒業、1999年工学研究科資源工学科専攻を修了し、鉄道会社に入社しております。その1999年は、新幹線トンネルの覆工が剥離し、走行中の新幹線にコンクリート塊が衝撃する事故を発生させた年です。それは、土木構造物の維持管理には技術力が必要であることを、社会的にも会社的にも再認識した年であったと思います。技術力向上が叫ばれた当時は、技術士補の他、コンクリート診断士等、業務の延長上にある資格を取得していく、2008年に技術士（建設部門）、2009年に技術士（総合技術監理部門）を取得しました。鉄道会社では、資格を積極的に活用した業務はほとんどありませんが、私が考える、今までの資格取得を通じて得られたものは、「つながり」です。ある一定の技術力を有すると判断される技術士の資格を取得する過程や、実際に取得した後の自分の活動により、世界は広がり、様々な方とのつながりが形成されます。たとえば、私事ではありますが、そのつながりのおかげで、2014年に工学研究科社会基盤工学専攻の博士後期課程を修めることができました。このつながりが私の最大の財産だと思っております。

（平9工、平11工修、平26博、建設/総合技術監理部門、西日本旅客鉄道（株））

### 技術士になるまでとこれから



西坂 直樹

私は平成11年工学研究科修士課程卒で、大学でダム基礎や地下空洞など岩盤について勉強しました。現在は京都大学技術士会の副会長兼代表幹事を務めておられる武藤光さんに連れてダム現場で岩盤試験のお手伝いをした経験があり、その縁もあって今回の会員紹介に寄稿させて頂いております。

愛媛県出身で四国電力㈱に入社し、活断層・火山灰・地すべりなど幅広く四国の地質に関する業務に携わり、応用理学部門の技術士資格を取得できました。その後、地震計設置のため硬い岩盤を深さ2,000mまで真っ直ぐ掘削するというプロジェクトに携わって貴重な経験をしました。これからも技術士の肩書に相応しいチャレンジングな仕事に取り組んでいきたいです。

（平11工修、応用理学部門、四国電力㈱）





## 技術士にチャレンジ



寺内 伸



## 化石資源から木質資源



喜多山 繁

大学卒業後、建設会社に入社して、早32年が経ちました。高速道路の山岳トンネルやインターチェンジの現場、本社の技術部門や経営企画部門、営業部門を経験して、現在は北陸支店（所在地：新潟）に勤務しております。

技術士は、本社の技術部門に所属しているときに取得しました。当時は、当社が関わる全国の山岳トンネル現場の設計や技術的課題への対応が業務でしたので、技術士の経験論文の「ネタ」には困りませんでしたし、周りに技術士の先輩が大勢おりましたので、受験環境としては非常に恵まれていたと思います。

建設業界では、技術士の認知度は高く、発注者との技術交渉や調整をスムーズに進めることができるなど、日常の業務においても、非常に有効な資格であると感じています。もちろん、技術者としての自己研鑽や倫理感の向上にも有意義な資格ですが、日常の仕事にも「役に立つ」資格として、特に若い方に果敢にチャレンジしていただきたいと思っています。

（昭58工、工博、建設/総合技術監理部門、株式会社安藤・間）

大学を卒業後2年半ほどパルプ会社の山林部に勤務し、その後京大農学部林学科、林産工学科で助手、講師として木材加工に関する研究、教育に従事しました。林産機械の騒音低減に関する研究で博士号を得た後、東京農工大学農学部林産学科で助教授、教授になり、2003年3月に定年退官しました。この間木質資源の利用に関する活動に携わりました。退官の少し前に林産企業の技術士の方から林産関係の技術士が少なく存亡の危機であるとのことで受験を要請されました。林産の技術士の受験者は現在も少なく、現在、同業、同学の方に森林—林産技術士の受験勧誘活動を続けています。

（昭37農、東京農工大学名誉教授、森林部門、森林部門技術士会副会長、国際森林認証PEFC Asia Promotions理事長）





## 技術士の社会的認知度



稻荷 誠



## 技術士試験と災害



小澤徹三

2001年に工学研究科修士課程を修了後、民間調査機関、建設コンサルタントを経て、現在は中小企業に対する経営・技術支援を主な仕事としています。

私は、技術士と中小企業診断士という2つの資格を拥っていますが、中小企業の経営者や幹部層の方とお話しすると、技術士は知らない人が大半で知名度が低いことを感じます。また、「技術士とはどのような仕事をするのですか?」といった質問を受けることも多く、内容を説明するのに苦慮することもあります。技術士の認知度向上に向けて何か良い方法がないだろうかと思いつつ、仕事に忙殺されている次第です。

なお、2014年に日刊工業新聞社から「環境保全と防災対策に着目した地盤・地下水開発技術<入門>」(共著)を上梓しました。環境学習や防災学習に活用して頂ければ幸いです。

(平13工修、建設/環境部門、いなりコンサルティングオフィス代表/一般社団法人知財経営ネットワーク(IPN)理事)

阪神淡路大震災の年、旧日本道路公団在職中の1995年に技術士試験に合格しました。10日ほど関西に行き、橋梁の倒壊、橋脚の破断(破壊)や桁のずれの現状等に関して本社への情報伝達等を行いました。ビルの横倒しや夜間神戸市内が暗闇であったことが印象に残っています。また、半年分の雨が半月(約1000mm)で降った東海北陸自動車道美濃地区のり面災害が生じた1999年に技術士登録を行いました。担当事務所に在席し2ヶ月間の通行止め後仮復旧し4年後に本復旧が完了しました。轟々と流れる長良川が印象的でした。その後は、技術士試験を受けないようにしています。

(昭51農、建設部門、西日本高速道路エンジニアリング中国(株))





## 技術者教育に携わって



浅野昌也

東レ（株）を定年退職後、平成21年から近畿大学大学院総合理工学研究科東大阪モノづくり専攻の客員教授として勤務しています。本専攻は、教育研究の場を、大学と企業の研究室の両方に設け、学生は企業の研究開発の実務を経験しつつ、基礎および専門教育と研究開発の指導をうけることができるユニークな専攻と言えます。その中で、私の役割は、学生のメンターリングとMOT教育・倫理教育などを通して総合的な研究者・技術者教育を行なうことであります。そして、派遣先企業の課題を把握し、2年間かけてこれらの課題を粘り強く解決していく、実践的な研究者・技術者の育成が目標の一つとなっています。修士論文発表会などで本専攻での成果や論文の発表を聴講し議論する中で、学生が確かに成長していると手応えを感じるのが毎年の楽しみの一つでもあります。

（昭45理修/工博、化学／総合技術監理部門、近畿大学大学院）

## 会員の皆様へのお願い

京都大学技術士会は、入会金や年会費はなく、行事毎の必要費用を参加費として負担いただいている。そこで次のお願いがあります。

### 1. 入会・登録情報変更方法

京都大学技術士会ホームページの専用フォームから必要な情報を送りください。

<http://ku-pe.net/>

最近、登録いただいているアドレスにメールが届かない事例が多くなっております。メールアドレスが変更になった方は、事務局までお知らせいただきますようお願いします。

### 2. 京大卒の技術士さんに入会をお勧め下さい

京大卒の技術士さんをご存じなら、ぜひ入会をお勧めくださいようお願いいたします。会員が多ければ、会のプレゼンスが向上します。また活動項目も増やせます。行事参加者が増えますので、参加費を下げる事も可能となります。

### 3. 講演会などの行事にも参加をお勧めください

現在のところ、会員以外の方も講演会に参加できるようにしています。同僚の方や同窓の方などに、開催通知を転送していただければ幸いです。

### 4. ご提案、ご意見お待ちしています

「こんなイベントをやってほしい」などのご提案や、改善すべき点などのご意見は、ホームページの専用フォームからお願いします。

## 編集後記

大学では新入生、会社では新社員を迎え、今年は花見も天候にめぐまれて新年度のスタートとなりました。会報第2号では、北野副学長と大津副研究科長からは大学の動向や在校生への技術士制度の説明について寄稿いただき、また元国交省技監の大石様（昭45工修）からは第5回講演会で話された一部を、さらに前日本技術士会国際委員長の橋本様（会員、昭35理）からは技術者資格の国際動向の寄稿をいただきました。広報担当の勝手なテーマ設定にもかかわらず、お忙しい中誠にありがとうございました。（林：涉外担当参与）

幹事、会員の皆様の自己紹介から、技術士としての熱い思いが人それぞれ感じられました。

「技術士を目指そう説明会」に参加された皆様も、一人でも多く仲間入りされることを楽しみにしています。（松井：広報幹事（関東））